

## 式辞

今を盛りにと咲き競う花々と、日々緑を増してきた木々に、今年も希望に満ちた春が巡ってまいりました。

この良きに日に、多数の御来賓の御臨席を賜り、埼玉県立川越西高等学校第四十一回入学式を挙行できますことは、新入生はもとより、私たち職員一同、大きな喜びでございます。

ただ今入学を許可いたしました三百二十三名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を心より歓迎いたします。

そして、今日まで様々な面でご苦勞を重ねて来られました保護者の皆様に、お子様の入学を心からお祝い申し上げます。

さて、入学にあたり、私の好きな言葉を二つ紹介いたします。

一つ目は「努力は天才に勝つ」という言葉です。本校への入学は新たな人生の出発点です。皆さんは本校に入学するために自分なりに努力し、その努力が実って見事に合格したわけです。高校入学のための勉強は、その事自体が大切なことですし、勉強したために、皆さんの学力も向上したと思います。しかし、入学できたからといって、ほっとして力を抜いてもらっては困ります。高校の勉強は中学までとは比べものにならないほどの分量と深みを持っています。

困難な課題で壁にぶつかることもあります。しかし、それだけに、分かった、理解できた時の満足感、喜びは何事にも替えがたいものがあります。

ここで「旬」という字を思い浮かべてください。俳句の句という字の口の部分を一日の日という字に変えた字です。よく食べ物の最もおいしい時期に、この旬という言葉が使われます。私は、人間にも旬があると考えます。つまり、人間の成長にとってそれぞれに最適な時機があるということです。例えば、小学一年生で習う漢字は、その時機に覚えるのが最適と考えられるから教科書に掲載されるというようなことです。ある研究によると、人間の記憶力は一八歳頃をピークとして衰退していくとされています。これに対して、論理的な思考は、もう少し発達のピークが後ろにずれ、ちょうど高校生あたりからが最も充実する時期と考えられています。つまり、高校三年間が一生のうちで、記憶力も論理的な思考も、最も充実している時機になるわけです。従って、この三年間で努力した人は、将来の夢に大きく近づくはずです。今、夢という言葉を出しましたが、まだ高校に入学したばかりで、将来の夢が見えていない人も少なからずいるはずです。それはそれでいいと思います。まだ夢が見えていない人も、今やるべきことを一生懸命やっていれば必ず結果

はついてきて、自ずと道は見えてくるはずです。是非、高校三年間で努力を重ね、自らの人生を切り拓いてください。

二つめは、「出会いの会いは愛である」という言葉です。本校に入学して多くの友人、先輩、先生方との出会いがあります。中には好きになれる人もいればそうでない人もいることと思います。しかし、いつまでも好き嫌いだけで人間関係を考えていては、幅の広い柔軟な感性は養えません。

最近行われたある調査では、企業が新規社員を採用する時に重視することとして一位は「コミュニケーション能力」、二位が「主体性」、三位が「協調性」という結果になりました。高校生活において、これらの能力は授業の中では勿論、社会の縮図としてのホームルーム活動や部活動を中心とする集団における活動体験で養われていきます。このような人間関係を豊かにする資質を育てる上でも高校時代は「旬」の時機であると言えます。人と人とのつながりの大切さを学び、自分の意見をしっかり主張しながらも相手の意見も尊重し、お互いを認め合う良好な人間関係を築いていってください。

今後、人工知能やロボットの発達により、働き方が大きく変わる時代が来ると言われています。しかし、何事にも努力のできる人、

誰とでも良好な人間関係が築ける人は、そしてもう一つ、正義感の強い人はどんなに社会が激しく変わろうとも、逞しく生きていけると確信しております。

これから本校での三年間は、皆さんにとって学問をそして人生を学ぶための「旬」な時機です。是非、この「旬」な時機を逃さず、本校の校訓である「敬愛・正義・努力」を常に心に留め、充実した高校生活を送ってください。

結びになりますが、保護者の皆様に申し上げます。本校職員一同、大切なお子様一人一人の教育に全力を尽くす覚悟です。保護者の皆様におかれましても、本校への御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、御多用の中、御臨席いただいた御来賓の皆様には、今後も本校への変わらぬ御支援、御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます、式辞とさせていただきます。

平成三十一年四月八日

埼玉県立川越西高等学校長

田 中 聡